

## てん 、一つでも大変な違い


扁の所に“ネ(しめす扁)”と“ネ(ころも扁)”とありました。とてもよく似た形をしていますが、意味は大変な違いがあります。こういう違いは、大切な働きがあるので、よく意味を考えて憶えることが必要です。

“神”“社”“礼”などは“<sup>しめす</sup>ネ扁”です。“社”はその土地の神様を祭った“やしろ”です。

“礼”はその“やしろ”の前にひざまづいて祈ることを表わした字です。いずれも“神”に関する言葉ですから、“ネ扁”であることが解るでしょう。

“補”は着物をつくろうこと、“被”は着物をかぶること、“裕”はゆったりとした大きい着物、“裸”は着物を脱ぐこと、皆着物に関するものですから、“<sup>ころも</sup>ネ扁”です。



このように、しっかりと意味を理解して置けば、ネ扁かネ扁か、書く時に迷うことはないはずです。迷ったり、間違えて書くのは、意味をしっかりと理解していないからです。

“構”のところの“戈(ほこ構)”と“ (しき構)”も、とてもよく似た形をしています。そのため、よく取り違えて書かれることの多い部首です。しかし、これも、意味は大変な違いがありますので、その違いをよく理解

しておけば、書き違えることはなくなります。

“?(式構)”は、地上に立てた目印のための木の枝の形を象った字です。だから、“目じるし”という意味の部首です。たとえば、“式”は、工作の時の“目じるし”で、つまり“お手本”で、“形式”“様式”などと使われます。また、“代”は、目じるしを持った人、という意味の会意字で、“かわり”だというしるしを持った人のことです。“代理”“代表”などと使われます。人の“かわり”ばかりでなく、世の“かわり”の意味にも使われ、“世代”“古代”“現代”などとも使われます。

“戈(<sup>ほこがまえ</sup>戈構)”は、武器の象形ですから、武器の意味や戦争の意味を持っています。たとえば“我”は、“手戈”で、手と戈との会意字で、手に戈を取るの“われ”を守るためであるということで“われ(自分)”の意味を表わしています。また、“武”は、戈と止との会意字ですが、戦争を防止する力が武力であるという考え方から作られています。

この“我”や“武”から、武器や戦争というものは守る性質のものであって、攻めるものではないことがよくわかります。“域”は、 (土地)と (人口)と、それを守るための戈(軍備)とで作られた会意字です。一つのまとまりのある土地の意味に使われます。“地域”“領域”などと使われます。